(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3718968号

(P3718968)

(45)発行日　平成17年11月24日(2005.11.24)　(24)登録日　平成17年9月16日(2005.9.16)

| (51)Int.Cl.[7] | F I | |
|---|---|---|
| B60J 5/04 | B60J 5/04 | F |
| B60R 13/02 | B60R 13/02 | B |

請求項の数 4　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願平9-230550
(22)出願日　平成9年8月27日(1997.8.27)
(65)公開番号　特開平11-59183
(43)公開日　平成11年3月2日(1999.3.2)
審査請求日　平成14年3月13日(2002.3.13)

(73)特許権者　000002082
スズキ株式会社
静岡県浜松市高塚町３００番地
(74)代理人　100060069
弁理士　奥山　尚男
(74)代理人　100077713
弁理士　武田　正男
(74)代理人　100072143
弁理士　秋山　暢利
(74)代理人　100096769
弁理士　有原　幸一
(74)代理人　100099623
弁理士　奥山　尚一

最終頁に続く

(54)【発明の名称】自動車のドアトリム構造

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

自動車のドアトリムに開口部を設け、この開口部にプルハンドルケースを嵌入した自動車のドアトリム構造において、上記ドアトリムの表面にトリム表皮を設けてこのトリム表皮に上記開口を設け、上記ドアトリムのプルハンドルケースを配設した部位の室内側にオーナメントガーニッシュを設け、このオーナメントガーニッシュを、トリム表皮を覆うように配するとともに、オーナメントガーニッシュの背面と上記プルハンドルケースとの間で上記ドアトリムに固定したことを特徴とする自動車のドアトリム構造。

【請求項２】

自動車のドアトリムに開口部を設け、この開口部にプルハンドルケースを嵌入した自動車のドアトリム構造において、上記ドアトリムの表面に表皮を設けてこの表皮に上記開口を設け、上記プルハンドルケース内側の側面にプルハンドルケースの開口から底面に向かって延び略W字状または波型状の凹凸形状を設ける一方、上記ドアトリムのプルハンドルケースを配設した部位の室内側にオーナメントガーニッシュを設けて上記ドアトリムに固定し、上記オーナメントガーニッシュの室内側の側面に、横方向に沿って凹部を設けたことを特徴とする自動車のドアトリム構造。

【請求項３】

自動車のドアトリムに開口部を設け、この開口部にプルハンドルケースを嵌入した自動車のドアトリム構造において、上記ドアトリムの表面にトリム表皮を設けてこのトリム表皮に上記開口を設け、上記ドアトリムのプルハンドルケースを配設した部位の室内側にオ

ーナメントガーニッシュを設け、このオーナメントガーニッシュを、トリム表皮を覆うように配するとともに上記プルハンドルケースと当接させ、かつ上記プルハンドルケースとの間で上記ドアトリムに固定し、上記プルハンドルケース内側の側面にプルハンドルケースの開口から底面に向かって延び略W字状または波型状の凹凸形状を設ける一方、上記オーナメントガーニッシュの室内側の側面に、横方向に沿って凹部を設けたことを特徴とする自動車のドアトリム構造。

【請求項４】

上記プルハンドルケースはフランジを有し、上記オーナメントガーニッシュの端部がそのフランジの端部と当接するように配設するとともに、上記オーナメントガーニッシュの凹部を横方向に沿って複数設けてその断面を略W字状の凹凸形状とし、上記プルハンドルケース下面にボスを設けたことを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載の自動車のドアトリム構造。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車のドアトリム構造に関する。

【０００２】

【従来の技術】

一般に、自動車のドアパネルの室内側には、図１１に示すようなドアトリム１０１が装着されており、該ドアトリム１０１には、ドアを開閉する際に乗員が手先を挿入して把持するプルハンドルケース１０２が設けられている。このプルハンドルケース近傍を上方から見た平面図を図１２に、図１２のＦ－Ｆ線による断面図を図１３に示す。

【０００３】

これらの図からわかるように、ドアトリム１０１には開口部１０３が設けられ、該開口部１０３にプルハンドルケース１０２が嵌入されている。該プルハンドルケース１０２は、上部が開口して、側面１０４は凹凸のない平坦な板状部材で囲まれており、底面１０５よりも上部の方が広がっている。この底面１０５は、スクリュー１０６等の慣用の締結手段で、プルハンドルブラケット１０７を介してドアインナーパネル１０８に取り付けられている。また、プルハンドルケース１０２の上端にはフランジ１０９が形成されており、該フランジ１０９はドアトリム１０１に設けられた開口部１０３に載置されている。なお、ドアトリム１０１の表面には、外観を向上させるためにトリム表皮１１０を装着している。

【０００４】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来の自動車のドアトリム構造においては、プルハンドルケース１０２の内側の側面が凹凸のない平坦な形状であるので、ドアを開閉するためにこのプルハンドルケースに手を挿入して把持するときに手が滑りやすかった。また、図１３に示すように、ドアトリム１０１の開口縁部１１１とプルハンドルケース１０２のフランジ１０９との間に隙間ｄが発生することがあり、外観上、見栄えが悪かった。さらに、ドアの開閉時に、手がトリム表皮１１０に直接触れるため、トリム表皮１１０が汚れたり、傷んだりしやすいという不具合があった。

【０００５】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたもので、ドアの開閉時に滑りにくく、見栄えが良く、トリム表皮が汚れたり、傷んだりしない自動車のドアトリム構造を提供することにある。

【０００６】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記課題を解決するためになされたものであり、自動車のドアトリムに開口部を設け、この開口部にプルハンドルケースを嵌入した自動車のドアトリム構造において、上記ドアトリムの表面にトリム表皮を設けてこのトリム表皮に上記開口を設け、上記ド

アトリムのプルハンドルケースを配設した部位の室内側にオーナメントガーニッシュを設け、このオーナメントガーニッシュを、トリム表皮を覆うように配するとともに、オーナメントガーニッシュの背面と上記プルハンドルケースとの間で上記ドアトリムに固定したことにある。

また、本発明は、自動車のドアトリムに開口部を設け、この開口部にプルハンドルケースを嵌入した自動車のドアトリム構造において、上記ドアトリムの表面に表皮を設けてこの表皮に上記開口を設け、上記プルハンドルケース内側の側面にプルハンドルケースの開口から底面に向かって延び略W字状または波型状の凹凸形状を設ける一方、上記ドアトリムのプルハンドルケースを配設した部位の室内側にオーナメントガーニッシュを設けて上記ドアトリムに固定し、上記オーナメントガーニッシュの室内側の側面に、横方向に沿って凹部を設けたことである。

さらに、本発明は、自動車のドアトリムに開口部を設け、この開口部にプルハンドルケースを嵌入した自動車のドアトリム構造において、上記ドアトリムの表面にトリム表皮を設けてこのトリム表皮に上記開口を設け、上記ドアトリムのプルハンドルケースを配設した部位の室内側にオーナメントガーニッシュを設け、このオーナメントガーニッシュを、トリム表皮を覆うように配するとともに上記プルハンドルケースと当接させ、かつ上記プルハンドルケースとの間で上記ドアトリムに固定し、上記プルハンドルケース内側の側面にプルハンドルケースの開口から底面に向かって延び略W字状または波型状の凹凸形状を設ける一方、上記オーナメントガーニッシュの室内側の側面に、横方向に沿って凹部を設けたことにある。

そして、本発明は、上記プルハンドルケースはフランジを有し、上記オーナメントガーシッシュの端部がそのフランジの端部と当接するように配設するとともに、上記オーナメントガーニッシュの凹部を横方向に沿って複数設けてその断面を略W字状の凹凸形状とし、上記プルハンドルケース下面にボスを設けたことにある。

【０００７】

【発明の実施の形態】

以下に図面を参照しながら、本発明に係る自動車のドアトリム構造を詳細に説明する。

本発明に係るドアトリム１には、図１に示すように、プルハンドルケース３を配設した部位の室内側にオーナメントガーニッシュ２が取り付けてある。このオーナメントガーニッシュ２の近傍を上方から見た平面図を図２に示す。

プルハンドルケース３の内部の室内側の側面４は、ドアの開閉時に手が滑らないように凹凸形状を形成してあり、底面５はスクリュー６等の慣用の締結手段で固定されている。このプルハンドルケース３の室内側には、オーナメントガーニッシュ２が配設されている。

図２のＡ－Ａ線による断面図を図３に、図２のＢ－Ｂ線による断面図を図４に示す。

【０００８】

図３に示すように、プルハンドルケース３の近傍部において、ドアトリム１は略垂直な縦壁面７と略水平な水平面８とで構成されている。この水平面８に開口部９を設け、該開口部９にプルハンドルケース３を嵌入している。ドアトリム１の表面には、外観向上を目的としてトリム表皮１０が装着されている。また、ドアトリム１はドアインナーパネル１１にクリップ（図示せず）等にて取り付けられている。

プルハンドルケース３は、上部が開口した箱型形状をしており、上方にいくにつれ徐々に広がっている。上端にはフランジ１２を有しており、該フランジ１２でドアトリム１の開口縁部１３に載置するとともに、底面５をプルハンドルブラケット１４で支持している。プルハンドルケース３の底面５の下部にはボス１５が突設しており、このボス１５をプルハンドルブラケット１４に設けられた貫通穴１６に挿入して位置決めをしている。

【０００９】

また、プルハンドルケース３の室内側には、その上端がプルハンドルケース３のフランジ１２に当接するようにオーナメントガーニッシュ２が配設されている。このオーナメントガーニッシュ２の側面は、図３に示すように室内側の面に断面略W状になるように凹部１７が上下２箇所に設けられている。室外側の面には、図４に示すようにボス１８が突設し

ており、ドアトリム１に設けた取付穴１９にボス１８を挿入して超音波溶着を施してオーナメントガーニッシュ２をドアトリム１に固定している。なお、該オーナメントガーニッシュ２の下部には、オーナメント２０が配設されている。

【００１０】

次いで、本発明に係るプルハンドルケース３とオーナメントガーニッシュ２をさらに詳細に説明する。図５～図７は、それぞれプルハンドルケース３の平面図、正面図、断面図である。プルハンドルケース３は、上記したように上部が開口しており、上端にフランジ１２を有する。プルハンドルケース３の内部の室内側の側面は略W状になるように凹凸形状に形成されている。また、底面５の中央部には取付穴２１が設けられており、該取付穴２１にスクリュー６を螺入してプルハンドルケース３をプルハンドルブラケット１４に取り付けている。プルハンドルケース３の底面５の下部には、ボス１５が２個、下方に向けて突設している。

【００１１】

図８～図１０は、それぞれオーナメントガーニッシュ２の正面図、縦断面図、横断面図である。オーナメントガーニッシュ２の表面側（室内側）には横方向に延びた上下２個の凹部１７が設けてあり、外観向上を図るとともに、ドア開閉時に手が掛かりやすくしてある。また、裏面側（室外側）にはドアトリムに超音波溶着を施すための４個のボス１８が突設している。

上述したような本発明に係るドアトリム構造によって、プルハンドルケース３とオーナメントガーニッシュ２を同じ色調にすれば、２つの部品が一体であるかのように見え、グリップハンドル風の外観を作り出すことができる。

【００１２】

プルハンドルケース３の内側の側面に設けた形状は凹凸形状に限定されず、例えば、波形形状のように手が滑らないものであればよい。

【００１３】

【発明の効果】

上述したように、本発明に係る自動車のドアトリム構造によれば、

プルハンドルケース内側の側面に凹凸形状を設けたため、プルハンドルタイプでありながらグリップハンドルタイプのような外観と機能が出せ、ドア開閉時に手が滑らず操作感が向上する。

プルハンドルケースを配設したドアトリムの室内側にオーナメントガーニッシュを設けたため、プルハンドルケースのフランジとトリムとの間の隙間が隠れて見えなくなって外観向上が図れる。また、トリム表皮に直接手が触れずにドアを開閉できるので、トリム表皮が汚れず、ドア開閉時に汚れを気にせずに確実に把持することが可能である。

オーナメントガーニッシュの室内側の側面に、横方向に沿って凹部を設けたため、デザイン上のアクセントとして外観の向上が図れる。また、プルハンドルケースの中に手を入れてプルハンドルとして使用するときの親指が掛かりやすくなる。

プルハンドルケース下面にボスを設けたため、プルハンドルケースをプルハンドルブラケットに取り付けるときの位置決めが簡単にかつ確実になり、取付作業性が向上した。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係るドアトリムの正面図である。

【図２】図１のプルハンドルケース近傍を上方から見た平面図である。

【図３】図２のＡ－Ａ線による断面図である。

【図４】図２のＢ－Ｂ線による断面図である。

【図５】本発明に係るプルハンドルケースの平面図である。

【図６】本発明に係るプルハンドルケースの正面図である。

【図７】図６のＣ－Ｃ線による断面図である。

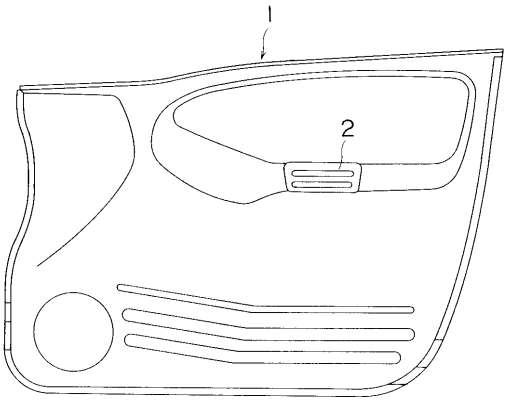
【図８】本発明に係るオーナメントガーニッシュの正面図である。

【図９】図８のＤ－Ｄ線による断面図である。

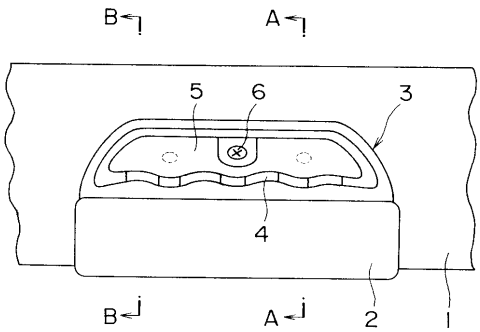
【図１０】図８のＥ－Ｅ線による断面図である。

【図１１】従来のドアトリムの正面図である。
【図１２】図１１のプルハンドルケース近傍を上方から見た平面図である。
【図１３】図１２のＦ－Ｆ線による断面図である。
【符号の説明】
１　ドアトリム
２　オーナメントガーニッシュ
３　プルハンドルケース
４　側面
９　開口部
１１　ドアインナーパネル
１５　ボス
１７　凹部

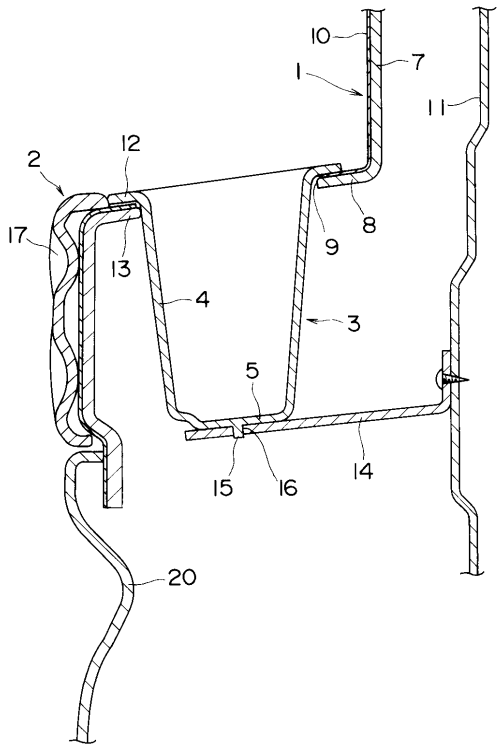
【図１】



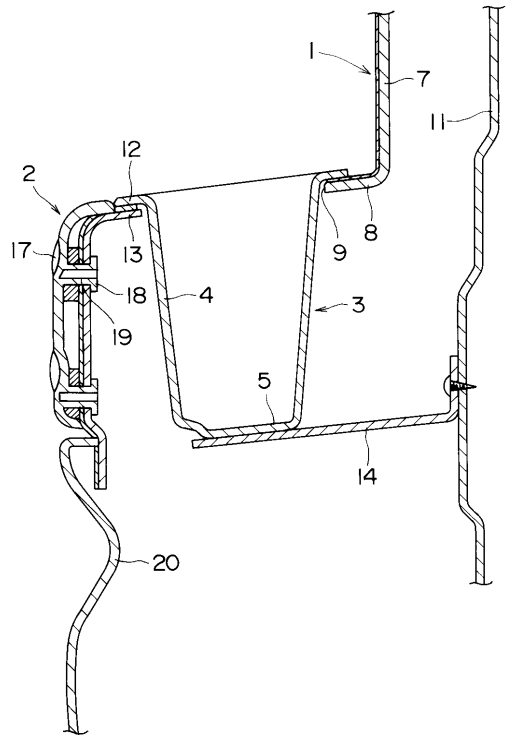

【図２】



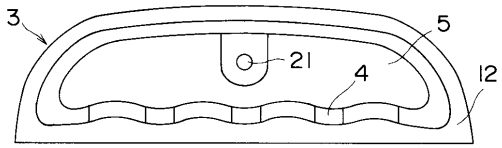

【図３】



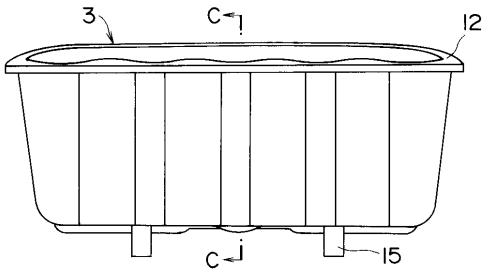
【図４】



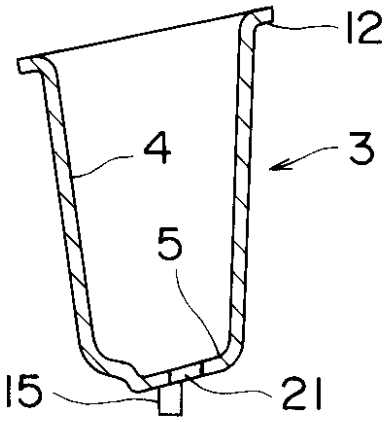

【図５】



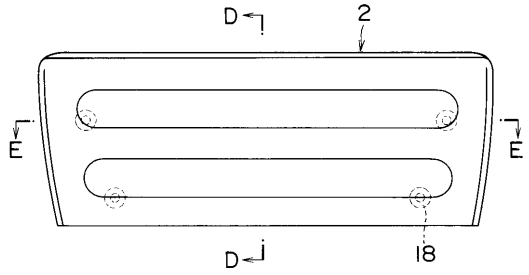

【図６】



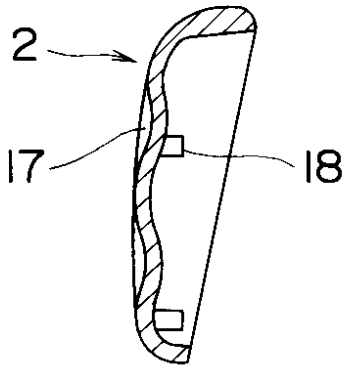

【図７】



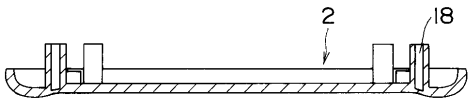

【図８】



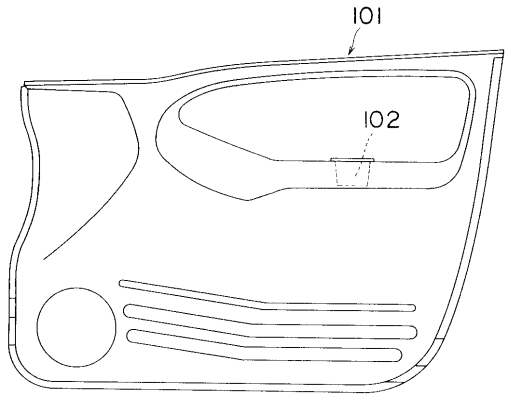

【図９】



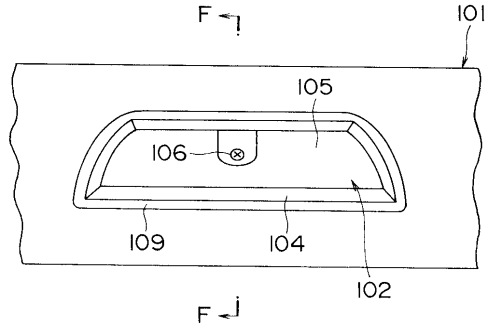

【図１０】



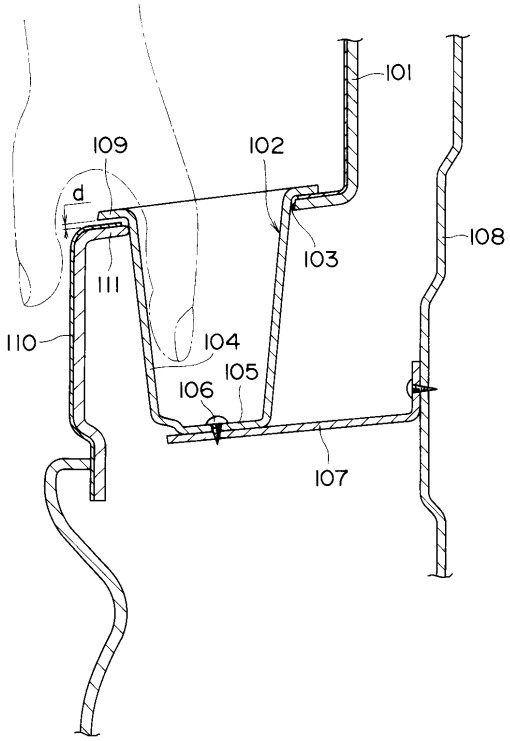
【図１１】


101
102

【図１２】


F
101
105
106
109
104
102
F

【図１３】


101
109
102
d
103
108
111
110
104
105
106
107

フロントページの続き

(72)発明者　笠井　　淳
静岡県浜松市高塚町３００番地　スズキ株式会社内
(72)発明者　梅田　義之
静岡県浜松市高塚町３００番地　スズキ株式会社内

審査官　島田　信一

(56)参考文献　実開平０４－０７１３４２（ＪＰ，Ｕ）
実開平０７－０３１４４６（ＪＰ，Ｕ）
特開平０９－０８６１７４（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－０５８３７４（ＪＰ，Ａ）
特開平０７－３０４３３５（ＪＰ，Ａ）
実開平０４－０７１３４２（ＪＰ，Ｕ）
実開平０７－０３１４４６（ＪＰ，Ｕ）
特開平０９－０８６１７４（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－０５８３７４（ＪＰ，Ａ）
特開平０７－３０４３３５（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.$^{7}$，ＤＢ名)
B60J　5/04
B60R 13/02